追 悼

堀江健二：野坂志朗先生 (1933–2014)

旭川市北邦野草園

Kenji HORIE : Dr. Shiro NOSAKA (1933–2014)

Asahikawa City Northern Wild Plants Garden, Arashiyama, Takasu, Hokkaido, 071-1200 JAPAN
E-mail: yasouen@asahikawa-park.or.jp

剣岳を背景に立山連峰にて（1988 年 8 月 3 日 堀江撮影）

2012 年 12 月より闘病生活を送られていました野坂志朗先生が，2014 年 7 月 6 日にお亡くなりになりました．享年 82 歳でした．

先生は 1933 年（昭和 8 年） 4 月 1 日に北海道留萌郡小平蘂村（現小平町）において出生され，幼少期から高等学校卒業までを夕張市で過ごされました．1955 年（昭和 30 年）3 月に北海道大学理学部生物学科（植物学専攻）を卒業され，同年 4 月より夕張南高等学校（現夕張高等学校）生物教諭として赴任されました．1962 年（昭和 37 年）5 月に札幌西高等学校に異動された後，札幌市内の高等学校 2 校をはじめ，北海道教育委員会指導主事，北海道女子教員養成所（当時），北海道理科教育センター指導員を歴任されました．1984 年（昭和 59 年）4 月には愛知教育大学教授に就任され，1994 年（平成 6 年）3 月に退官された後は江別市大麻のご自宅へ戻られ，2002 年（平成 14 年）3 月まで酪農学園大学非常勤講師を勤められました．

先生は，夕張岳の植物分類学研究の第一人者としてご活躍され，大きな足跡を残されました．1960 年より高等学校教諭を勤めながら北海道大学の研究生として研究に励まれ，「北陸の植物」（現 植物地理，分類研究）へ 7 回にわたり A Preliminary Report on the Phanerogam Flora of Mt. Yupari Prov. Ishikari, Hokkaido を，更に 1969 年には A Supplementary Note on the Phanerogam Flora of Mt. Yupari Prov. Ishikari, Hokkaido で補

遺を発表されました．また，ユウパリシャジン（1960，植物分類・地理，豊国秀夫博士と連名），ユウパリミセバヤ（1971，植物研究雑誌），ユウパリクモマグサ（1974，北海道大学理学部紀要）を夕張岳産の新種植物として記載発表されました．数多く発表された夕張岳の種子植物の論文は，1972 年 に The Phanerogam Flora of Mt. Yupari, Prov. Ishikari, Hokkaido, Japan で北海道大学の学位論文として集大成され，1974 年には北海道大学理学部紀要に掲載されました．

この論文には夕張岳産種子植物として 535 種 1 亜種 10 変種 11 品種が上げられ，各植物について学名とその出典，異名，和名，分布地をはじめ，分類学的な見解を詳細に記述され，生育地の土壌状況も明示されました．北村四郎博士はこの論文を著書 (1993) の中で「度たび夕張岳を調査してまとめたすぐれた論文である」と述べられ，高山植物研究のバイブルとして高く評価されています．

1991 年（平成 3 年）に夕張岳の国の天然記念物指定に向けて行われました植生等総合調査では佐藤　謙博士，私も参加しましたが，先生は精力的にその中心的役割を担われ，実現に多大なご尽力をされました．

愛知教育大学での先生は，愛知県，三重県周辺をはじめ早池峰山，至仏山や日本アルプス，高知県の蛇紋岩地に足を運ばれ，調査研究されました．1988 年 8 月，先生は調査中に足の骨を折る大怪我をされましたが，夏休みに北海道に戻られ，宗谷管内中頓別町から日高管内新ひだか町に至る低地の蛇紋岩地へ私も同行し植物調査を行いました．それは 6 年間継続して行われました．その一部は，愛知教育大学の紀要に Synoptic Sketch of the Serpentine Flora of Lowland Areas in Hokkaido, Japan (1993，1994) として発表されたほか，地元の博物館館報に 5 編掲載されました．この時に先生と行った北海道全域に及ぶ広範囲な蛇紋岩地での詳細な調査は，私の学位論文の大変貴重な資料となりました．また，後に門田裕一博士により記載発表されたソウヤキンポウゲ (2007)，ソラチアオヤギバナ (2008)，カムイレイジンソウ (2012)，ウリュウキンポウゲ (2012)，アサヒカワアザミ (2013), カムイトウヒレン（2015）を見出す契機ともなりました．

酪農学園大学では，The Distribution and Extent of Serpentinized Areas in Japan (1992, Kluwer Academic Publishers) の共同著者である蛇紋岩土壌学の水野直治博士と学生を指導されるかたわら，「北海道レッドデータブック」(2001) の検討委員としてその選定，出版にも力を尽くされました．

晩年は，長く共にしてきた植物仲間と山歩きを楽しまれながら，撮りためた膨大な数のスライドを整理され，北海道開拓記念館（現北海道博物館），北海道理科教育センター等に寄贈されました．また，請われて北海道の植物愛好家の集まり「北方山草会」の会長を 4 年間務められました．

誠実で温厚なお人柄の先生は，どなたに対しても常に優しく丁寧に接していらっしゃり，そのお姿がとても強く印象に残っております．植物研究に向き合われる真摯で謙虚な姿勢から，多くのことを学ばせていただきました．また，先生は多才な方でピアノの調べは繊細且つ寛容で，ユーモアを交えた巧みな話術は周囲の人々の心を常に和ませてくださいました．

夕張岳をはじめ，多くの野外調査に同行させていただき，先生とお会いしてから 30 年に及ぶ調査研究の中で，実にご懇切なる指導をいただけたことは私にとりまして大変大きな喜びでした．心より感謝し，お礼を申しあげます．

最後に 2003 年に先生の古希を記念して発刊しました「野坂志朗先生古希記念論文選集」に先生が寄せられた一文をご紹介いたします．

「— 北海道大学理学部生物学科（植物学専攻）3 年目学生であった昭和 28 (1953) 年，故 秋山茂雄先生ご指導のもとに，札幌近郊や胆振地方の野生植物観察ができたことが，私の野生植物との付き合いの始まりであった．幸いなことに，同期生 12 名の中に，後にリンドウ科をはじめとして顕花植物分類の権威者となった故 豊国秀夫博士が居たことが，その後の私の野生植物観察 50 年の旅を支えてくれることとなった．—」

謹んでご冥福をお祈り申し上げます．